

流域治水プロジェクトの見直し

令和6年3月18日

国土交通省 四国地方整備局

高知県

- 気候変動を踏まえた「流域治水プロジェクト2.0」の策定に向けて、流域治水協議会で報告し、今後、関係機関と連携して検討していく予定。

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

いのちと暮らしをまもる
防災減災

令和5年8月22日
水管理・国土保全局 河川計画課
治水課

『流域治水プロジェクト2.0』を策定します
～気候変動を踏まえた河川及び流域での対策の方向性を公表～

気候変動の影響による降雨量の増大に対して、早期に防災・減災を実現するため、流域のあらゆる関係者による、様々な手法を活用した対策の一層の充実を図り、『流域治水プロジェクト2.0』として取りまとめます。

<概要>
流域治水プロジェクトは、上流、下流、本川、支川の流域全体を俯瞰し、河川整備等に加えて、雨水貯留浸透施設、土地利用規制、利水ダムの事前放流など、あらゆる関係者が協働し、各水系で重点的に実施する治水対策の全体像を取りまとめた取組です。
気候変動の影響により、2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍に増加すると見込まれることを踏まえ、流域治水の取組を更に加速化・深化させるため、全国109の一級水系で、気候変動を踏まえた河川及び流域での対策の方針を反映した流域治水プロジェクト2.0に更新してまいります。今般、全国8の一級水系（別紙1参照）において先行して公表し、他の一級水系についても、今年度を目途に順次更新してまいります。

<流域治水プロジェクト2.0のポイント>

【ポイント①】

- 気候変動による降雨量増加に伴う水害リスク（浸水世帯数等）の増大を明示する。

【ポイント②】

- これに対応するため、本川の整備に加えて、まちづくりや内水対策などの流域対策を充実し達成目標を設定する（目標の重層化）。

【ポイント③】

- この目標を達成するために必要な追加対策等を明示する。

<先行河川事例：仁淀川（R5.8.22策定）>により、流域治水プロジェクト2.0の概要を説明

<報道発表>「流域治水プロジェクト2.0」の概要

- 気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させる。
- このために必要な取組を反映し『流域治水プロジェクト2.0』に更新する。

現状・課題

- 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算
現行の河川整備計画が完了したとしても治水安全度は目減り
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの対応
- インフラDX等の技術の進展

必要な対応

- 気候変動下においても、目標とする治水安全度を現行の計画と同じ完了時期までに達成する
- あらゆる関係者による、様々な手法を活用した、対策の一層の充実を図る

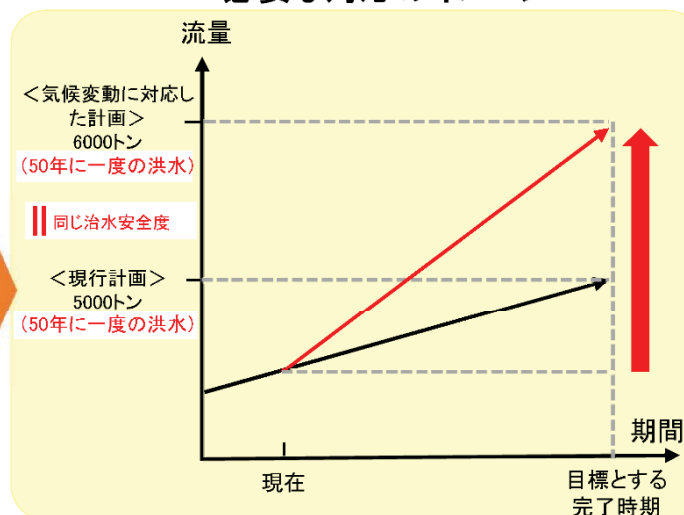
必要な対応のイメージ

気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模)
2℃上昇	約1.1倍

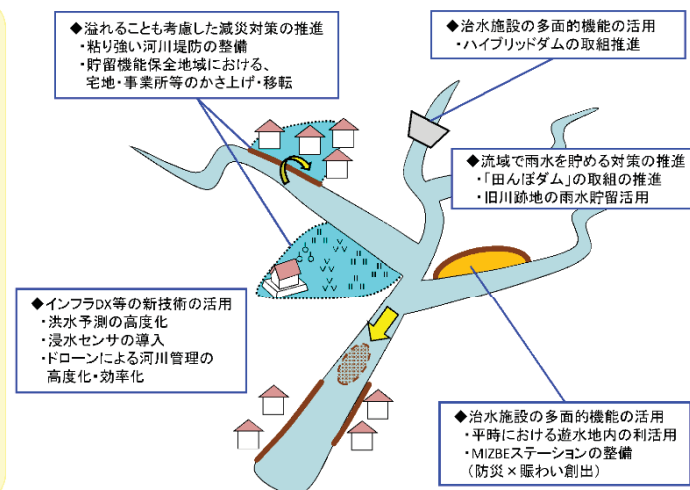
降雨量が約1.1倍となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量
	約1.2倍

同じ治水安全度を確保するためには、目標流量を1.2倍に引き上げる必要



様々な手法の活用イメージ



※現行の計画と同じ完了時期までに目標とする治水安全度を達成するため、様々な手法を活用し、集中的に整備を進めることが必要
⇒全国109水系で、上記の対策内容を反映した『流域治水プロジェクト2.0』に順次更新する

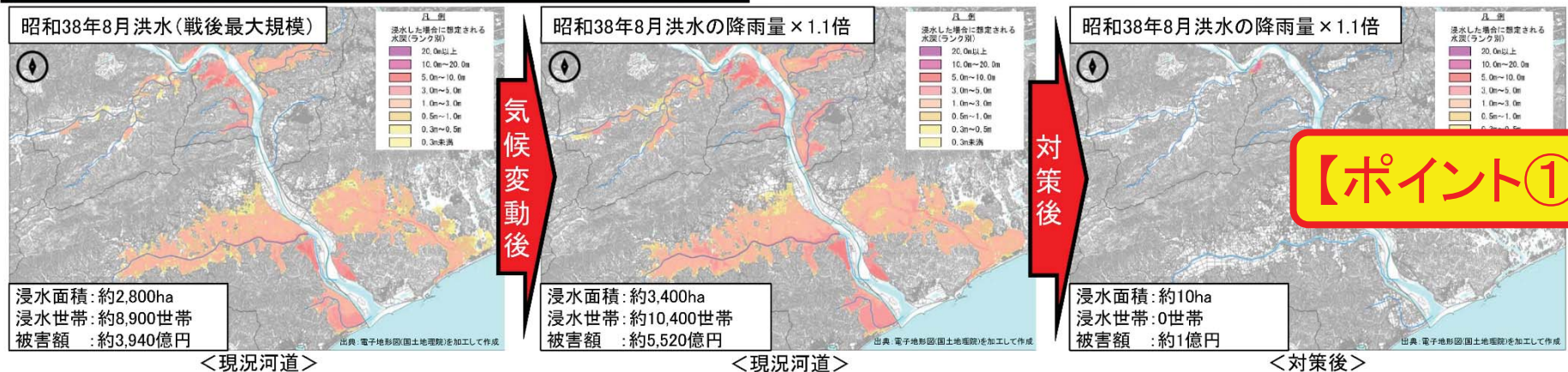
11水系(豊平川(石狩川水系)・鳴瀬川・関川・梯川・雲出川・狩野川・由良川・太田川・仁淀川・緑川・遠賀川)において
令和5年8月に先行して公表

気候変動に伴う水害リスクの増大（仁淀川）

- 気候変動を考慮し昭和38年8月洪水（戦後最大規模）の降雨量を1.1倍した洪水が発生した場合、仁淀川流域では、浸水面積は約3,400ha（現況の約1.2倍）となり、浸水世帯数は約10,400世帯（現況の約1.2倍）、被害額は約5,520億円（現況の約1.4倍）になると想定される。
- 追加の対策の実施により浸水面積を約10ha、被害額を約1億円にまで軽減し、浸水世帯を0世帯へと解消する。

■ 気候変動に伴う水害リスクの増大

【目標①】KPI: 浸水世帯数 約10,400世帯 ⇒ 0世帯



■ 水害リスクを踏まえた各主体の主な対策と目標

【目標①】本川国管理区間における気候変動による降雨量増加後の昭和38年8月洪水規模に対する安全の確保

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ、減らす	国	約10,400世帯の浸水被害を解消	・河道掘削：約220万m ³ <現計画の約2倍> ・既設ダムの有効活用 ・遊水地 ・八田堰改築	概ね30年
		浸水リスクの低減 避難時間の確保	・侵食対策：約6.8km ・伊野堤防の強化	概ね20年
被害の軽減 早期復旧・復興	国、県、自治体	大規模土砂災害による浸水被害の防止・軽減	・大規模土砂災害（河道閉塞等）の対応を関係機関等と連携して実施	—
	国、土佐市	水防活動や復旧活動の迅速化	・河川防災ステーション（MIZBEステーション）	概ね10年
	国、県、自治体	流域対策の一層の加速化	・シンポジウム等による防災意識の啓発	—
	国	ダムの治水・利水機能の更なる強化	・AIを活用したダム運用の高度化（DX）	—

※このシミュレーションの実施にあたっては、支川の（決壊による）氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していない。今後のシミュレーション精度の向上等により、数値等が変わる可能性がある

※新たに追加した対策（更なる推進含む）

【目標②】波介川、宇治川、日下川における気候変動による降雨量増加後の年超過確率1/10降雨規模に対する浸水被害を軽減

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ、減らす	土佐市	浸水の防止・軽減 貯留機能の保全	・農業基盤整備に合わせた ・遊水機能を確保するため	概ね10年
	いの町	浸水の防止・軽減、内水の排除	・雨水排水ポンプの増強	概ね10年
	日高村	浸水の防止・軽減、内水の排除 貯留機能の保全	・雨水排水ポンプの増強 ・旧川跡等の雨水貯留活用	概ね10年
	佐川町	貯留機能の保全	・特定都市河川の指定	概ね5年
象徴被害を減らす	日高村	新たな居住に対し、立地を規制する 居住者の命を守る	・特定都市河川の指定（検討中）	概ね5年
	いの町	浸水域のリアルタイム把握 下水道による浸水対策の計画の推進	・ワンコイン浸水センサによるリアルタイムでの情報把握（DX） ・雨水管理総合計画の策定	概ね5年

【ポイント②】

＜解説＞

【ポイント①】気候変動による降雨量増加に伴う水害リスクの明示

- 気候変動の影響による流域内の水害リスクの増大について、流域関係者の認識の共有が重要であることから、現状と気候変動下における水害リスク(浸水世帯数等)の増大を明示します。
- また、今回追加する対策(ポイント③参照)による水害リスクの低減効果も合わせて明示し、対策の効果を定量的に示します。

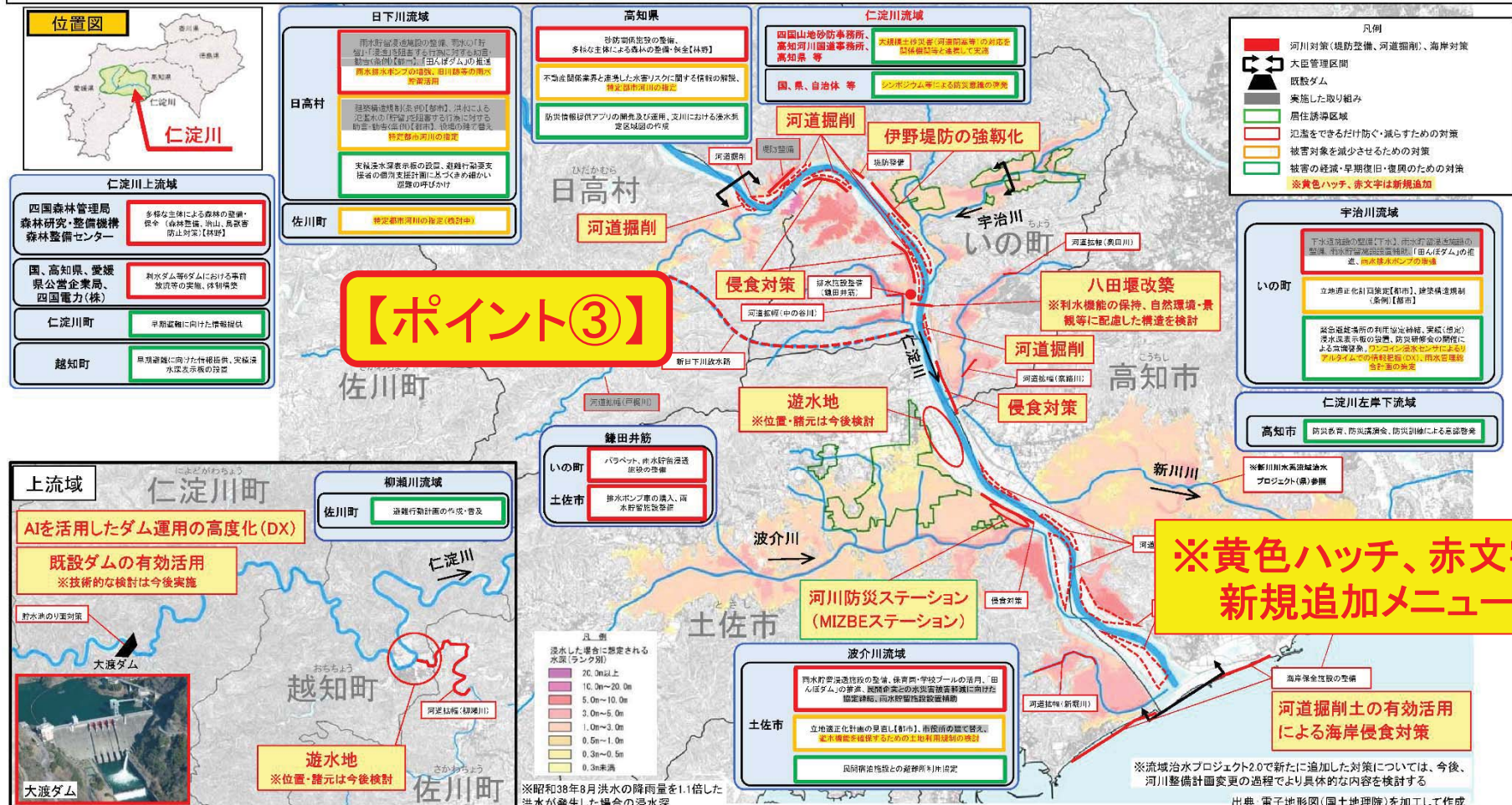
【ポイント②】河川整備と流域対策の新たな目標設定(目標の重層化)

- ポイント①で示した水害リスクの増加に対応するため、本川の河川整備における治水対策の目標に加えて、流域対策の達成目標も設定し、まちづくりや内水対策等の流域対策の更なる充実を図ります。
- また、各目標の達成に向けた必要な対策の内容や量・期間及び実施主体も合わせて記載し、流域関係者における主体的な流域治水の取組への参画を推進します。
- 仁淀川水系においては、本川の目標に加えて、仁淀川本川に流入する3支川(波介川、宇治川、日下川)において、気候変動の影響に伴う降雨量の増加を踏まえた流域対策と目標設定を実施し、浸水被害軽減を図ります。

仁淀川水系流域治水プロジェクト2.0【位置図】

～仁淀ブルーが育む地域の暮らしと産業を守る流域治水対策の推進～

- 仁淀川では、本川国管理区間において、戦後最大流量を記録した昭和38年8月洪水が、気候変動（2℃上昇）を考慮し流量が増加した場合においても（降雨量を1.1倍とした場合）、目標とする治水安全度を確保し、追加の対策により浸水被害の防止又は軽減を図る。
- そのため、既設ダムの有効活用、遊水地の整備により洪水を貯留するとともに、河道掘削、堰改築により洪水を安全に流下させる。
- また、計画規模を超える洪水が発生した場合でも、伊野堤防の強靱化、防災ステーション等の整備により被害の軽減や早期復旧を図る。
- 支川や集水域、氾濫域においても、特定都市河川浸水被害対策法の適用、「田んぼダム」の推進など、更なる治水対策を推進する。



<解説>

【ポイント③】必要な追加対策等の明示

- ポイント②で示した目標を達成するために必要な河川区域内の追加対策等を明示するとともに、氾濫域における流域対策の追加対策も合わせて明示し、ハード・ソフト一体となり、流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で「流域治水」を推進していきます。
- 仁淀川水系の本川においては、堰の改築や遊水地の整備、既設ダムの有効活用に加えて、MIZBEステーション*の整備や堤防の強靱化などを推進していきます。

* 河川防災ステーションの上面などを活用した平時における市町村等の取り組みにより、地域活性化や賑わいの創出が期待される河川防災ステーション

- 仁淀川水系の支川(波介川、宇治川、日下川)においては、雨水排水ポンプの増強や農業基盤整備に合わせた「田んぼダム」の推進に加えて、特定都市河川の指定やワンコイン浸水センサによるリアルタイムでの情報把握(DX)などを推進していきます。

※流域治水協議会における議論等を踏まえて、今後とも流域関係者が実施する流域対策等の取組の充実を図ります。また、流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した対策については、今後、河川整備計画変更の過程でより具体的な内容を検討します。

- 「流域治水プロジェクト2.0」の検討にあたり、気候変動を踏まえた新たな目標を設定し、その目標を達成するために必要な河川整備の追加対策を明示。
- また、各関係機関の流域治水対策についても、気候変動を考慮した新たな流域治水メニューや既存の流域治水メニューの更なる推進等について、各関係機関の検討結果を反映し、取りまとめる。

流域治水プロジェクト2.0の目標・狙い

目標：気候変動下における外力の増大に対しても従来の安全度を維持

狙い：気候変動による降雨量増加に伴う水害リスクの提示

気候変動による降雨量増加によって想定される**対策の方向性の提示**

●従前（治水計画と流プロ）

← あらゆる関係者 →

河川管理者

河川管理者以外



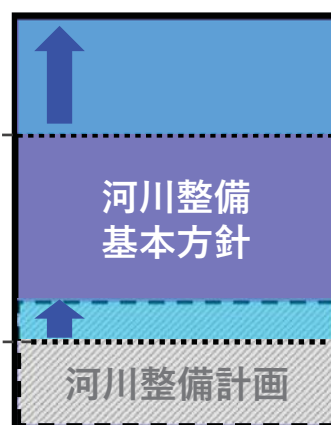
流プロ

●今回（治水計画と流プロ2.0）

← あらゆる関係者 →

河川管理者

河川管理者以外



流プロ2.0

↑ 気候変動考慮

●今後（治水計画）

治水計画を気候変動
対応へ見直し

